

計

三、五八三

九一七

三、生産状況

麥稈真田は主として岡山、香川、廣島の三縣に生産せられ、之等の地方に於ける農家の副業として發達せるものにして、之が製造場數のみにても凡そ八萬數千に達せり。生産者は自家の收穫に係る麥稈を用ひ、或は原料販賣者より麥稈を購ひて製造をなすものなれども、何れも純然たる手工業にして、機械其の他重要な設備を要せざるなり。而して此の生産者の間に立ちて之が原料或は製品の取扱をなすものに、染色業、仲立業、取次業、問屋業等種々あり。之等複雑せる生産組織は斯業の弊害を醸すこと亦尠しとせず。

本品は細原料使用に依る細物と、太原料使用による太物との二種に大別せらるゝが、細物は支那眞田に壓迫せらるゝこと特に甚し。

(イ) 生産額

年次	數量	價額
昭和五年(推定)	七、一〇〇、〇〇〇束	二、一五〇、〇〇〇圓
昭和六年(同)	六、二〇〇、〇〇〇	一、四五〇、〇〇〇

昭和七年(同)

七、六五〇、〇〇〇

二、五五〇、〇〇〇

府縣別生産額 (昭和六年)

府縣名	數量	價額
岡山(推定)	二、五〇〇、〇〇〇束	五八〇、〇〇〇圓
廣島(同)	一、五〇〇、〇〇〇	三五〇、〇〇〇
香川(同)	二、〇〇〇、〇〇〇	四七五、〇〇〇
福岡(同)	一八〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
其他(同)	二〇、〇〇〇	五、〇〇〇
計(同)	六、二〇〇、〇〇〇	一、四五〇、〇〇〇

(ロ) 主要生産者名及所在地名

麥稈真田の製造は生産状況の項に述べたる如く、農家の副業的工業にして、生産地方一圓の各農家が殆んど生産者なるを以て、生産者名を掲ぐることに困難なるが、之等各地の農家は何れも同業組合を組織し居るが故に、便宜の爲め之が同業組合を掲記することとせり。

- 岡山縣 眞田同業組合
- 香川縣 麥稈眞田同業組合
- 廣島縣 備後眞田同業組合
- 岡山縣 淺口郡金光町
- 高松市 内町一二三
- 福山市 三之丸町

山口縣真田同業組合

山口縣都濃郡徳山町

四、内外品競争状況

(イ) 競争外國品の製造者又は取扱者名

本邦斯業の競争國としては、殆んど支那に限らるゝものなるが、同國に於ける製造も本邦に於ける其れと等しく、全部家内工業に屬するを以て、特記すべき製造者なく、之が取扱者も概して本邦商人なりとす。即ち左の如し。

國名	取扱者名	名柄
支那	藤井商店	原草、沙河、埴邱、橋巳子
	吉澤商店	Fuchu, Sahopei, Yosig, Kosai, Saho,
	南直治商店	招牌埴邱、大路埴邱

(ロ) 品質の比較

支那製品と本邦製品とは自ら原料を異にするが故に、品質の比較困難なるも、支那品は丸平編の一種に限られ、耐久力强し。本邦品は編方により頗る多種類に岐れ、之等は何れも獨特の技術と漂白法の進歩とに依り光澤ある美麗なるものを生産するに至り、労働者向の如き比較的耐久力あ

るものの輸入を必要とするものゝ外は、何等輸入品の必要を認めず。

(ハ) 価格の比較

内外品は編方及重量等の差異により比較困難なるも、支那真田と本邦に於ける最も需要多き單四菱との昭和七年末の価格を示せば次の如し

品名	價額
内地真田 一反當り	〇・三〇 ^円
支那真田 一反當り	〇・九〇

(支那真田一反の長さは内地真田の二反分)

(ニ) 競争上不利とする點

細程にして硬質なる原料は、本邦に生産せられざること。支那に於ける工費は、本邦に比して更に低廉なること。

(ホ) 競争上有利とする點

色澤鮮麗なる原料を用ひ、多種多様なものを生産し得ること。

四、鉛筆

一、概 説

鉛算が數百年前より歐洲地方に盛んに製造せられたることは文獻に明かなるが、我が國に於て之が模造を試みたるは、明治初年に屬するもの、如し。爾來幾多の研究を重ねて明治十一年頃漸く製造の緒に就きたりしが、其の後特別なる發展を見ず。大正三四年頃より東京、大阪、和歌山、愛知、廣島、三重、神奈川等の各地に斯業の勃興となり、大正六七年の交には早くも全盛を極むるに至れり。然れども當時の製品は概して低級品にして、高級品の製造は東京に於ける二三の工場に過ぎざる有様なりしが故に、歐洲大戰後漸次外國品に壓迫せられ、逐年輸入増加の傾向を示せり。

近時内地に於て高級品の研究完成し、今や全く獨米品に匹敵すべき優良品を製出するに至れり。鉛筆の原料たる木鞘用材は、從來北海道産アラ、ギを使用したりしが、漸次良材の缺乏を來したるを以て、最近に於ては多く北米合衆國より供給を仰ぎつゝあるは遺憾とする處なるも、近時は米材爲替關係より、高價となりたるを以つて、臺灣産の材料を多少使用するに至れり。黒鉛にありては朝鮮産及内地産を使用し、輸入品を使用するものは殆どなきが如し。

二、輸出入狀況

(イ) 輸 入 額

年 次	數 量	價 額
昭和五年	四八一、九〇五打	二八〇、二六四圓
昭和六年	三〇五、三二八	一八〇、四三一
昭和七年	二二二、九七二	一三九、六〇六

國別輸入額 (昭和七年)

國 名	數 量	價 額
關 東 州	一七八打	四三圓
英 領 印 度	八	二
英 吉 利	二、一二二	三、五四五
佛 蘭 西	一四四	三〇九
獨 逸	二〇四、九四三	一一七、六三二
伊 太 利	一七	二〇
		五八一

鉛筆は元來獨逸及米國を以て世界の主産地とし、本邦も亦是等主産地より供給を受け、明治の末年頃には七十七萬餘圓の最高輸入額に達せり。爾來本邦斯業の發展と共に輸入の減退を見たるも歐洲大戰後再び輸入増加し、特に高級品に於て著しきものありたり。然れども近時内地當業者の之が對抗品の研究に苦心したる結果、逐年輸入を減少するに至れり。

チエツコスロバキア	一九	五八二
和 蘭	二四〇	二〇
北米合衆國	五、二八九	七、九四五
加 奈 陀	一一二	六
計	二二二、九七二	一三九、六〇六

(口) 輸 出 額

彼の歐洲大戰亂は我が鉛筆の輸出を頗る有利ならしめ、大正六年には其の額百二十九萬三千哥、二百餘萬圓に達したり。然れども此の輸出増加は、却つて粗製濫造を惹起して、本邦品の聲價を失墜し、次で歐洲に於ける生産の復活と相俟つて、本邦品の輸出は漸次減退し、現時に於ては財界不況の禍因をも伴ひ、之が増進を見ず辛ふじて年額四五十萬圓を保持しつゝあり。

年 次	數 量	價 額
昭和五年	四三三、八六二哥	五一五、三九九圓
昭和六年	四八一、六二五	四四七、〇一七
昭和七年	一、〇六三、四六二	七八二、九八五

國別輸出額 (昭和六年)

中華民國	數 量	價 額
	一一九千哥	一三六千圓

關 東 州	二四	二九
香 港	三一	二五
英 領 印 度	一一三	六七
海峽殖民地	五	四
蘭 領 印 度	二一	二一
比律賓諸島	五七	五七
暹 羅	二	二
其他の亞細亞諸國	二	二
英 吉 利	一四	一〇
獨 逸	一	〇
和 蘭	七	七
其他の歐洲諸國	一	〇
北米合衆國	一〇	一四
加 奈 陀	一八	一九
其他の北米諸國	二	一
墨 西 哥	一四	一二
玖 馬	四	五
サルバドル	一	〇
計	一四	五八三

パナマ運河地帯	一	〇	五八四
其他の中米諸國	二	一	〇
秘 露	五	三	一
智 利	一	一	二
亞爾然丁	四	二	一
伯刺西爾	二	一	一
ウルグアイ	二	一	一
其他の南米諸國	七	六	一
埃 及	三	一	〇
南阿聯邦	一	〇	一
東部阿弗利加	一	一	〇
濠 太 利	六	四	〇
新 西 蘭	一	〇	四
計	四八二	四四七	

三、生産狀況

斯業は東京を主産地となし、大阪、福岡、神奈川等に小數の製造者を數ふるものなるが、之等の多くは家内工業若くは中小工業の域を脱せざるの現状にして、工場組織に依る全國總數は四十餘に過ぎ

ず、之が従業者も千百餘人に止まれり。製造者中には原料の調製より仕上に至る全工程を營むものと、蕊のみを製造するもの、蕊を購入して軸の製造及仕上をなすものとの三種大別することを得るものなるが、別に北海道方面には鉛筆用木材の製造工場あり。近時鉛筆製造業者の内には、輸入鉛筆材の代用品として内地材に對する研究を爲しつゝあるもの尠なからず。

(イ) 生産額

年 次	價 額	年 次	價 額
昭和五年 (推定)	四、〇〇〇、〇〇〇圓	昭和七年 (推定)	三、五〇〇、〇〇〇圓
昭和六年 (同)	三、二〇〇、〇〇〇		

府縣別生産額 (昭和六年)

府 縣 名	價 額	府 縣 名	價 額
東 京 (推定)	二、七〇〇、〇〇〇圓	其 他 (推定)	五〇、〇〇〇圓
神 奈 川 (同)	二〇〇、〇〇〇	計	三、二〇〇、〇〇〇
大 阪 (同)	二五〇、〇〇〇		

(ロ) 主要生産者名及所在地名

日本鉛筆製造株式會社

東京市豊島區池袋三九七

- 市川鉛筆文具株式会社
- 眞崎大和鉛筆株式会社
- 東洋文具製作所
- 小川春之輔
- 株式會社大崎鉛筆製造所
- 合資會社長尾商店
- 上條合資會社
- 江藤株式會社
- 赤木廣八
- 東邦鉛筆製造株式會社
- 東京鉛筆製造所
- プラトン文具株式會社
- 東京市日本橋區本町三ノ五
- 橫濱市神奈川區西神奈川町二ノ五二
- 東京市目黒區目黒町
- 東京市淺草區瓦町二八
- 東京市品川區東大崎五丁目一三五
- 東京市荒川區南千住町一丁目二〇
- 東京市日本橋區橫山町三ノ八
- 大阪市東區淀屋橋
- 東京市神田區久右衛門町
- 福岡市春吉町一、五八五
- 東京市荒川區日暮里町四丁目九六〇
- 大阪市浪速區馬淵町四一

四、内外品競争狀況

(イ) 競争外國品の製造者名又は取扱者名

國名	製造者名又は取扱者名	主たる種類或は名稱
英吉利	A. W. Faber.	"Castell"
獨逸	H. Lichtenhein	色鉛筆各種
	J. S. Staedtler.	"Mars"
	John Faber.	"Apollo."
北米合衆國	The American Pencil Co.	"Venus"
	Ever Hard Faber	"Mongol"

(ロ) 品質の比較

本邦鉛筆は近時著しく改善せられ、硬度の正確なること、運筆上の圓滑、色蕊の鮮麗なる點等に於て、實用上何等外國品に遜色なく、又塗裝其の他の仕上に付いても外國品に匹敵するに至れり。

(ハ) 價格の比較

鉛筆は品質に依り多種類に岐るゝと共に、價格にも非常に差異あるものなるが、本邦製造者は各自特に輸入名稱別の對抗品を製造する實狀にして、昭和七年末に於ける之等主なるものに付、内地品の平均價格を輸入品に比較すれば左の如し。

種 類	内地製	外國製
コピー一本に付	約〇・〇九	〇・一四
級一打に付	〇・七〇	一・二〇
級一打に付	〇・四五	一・〇〇
級製圖用一本に付	〇・〇九	〇・二三

(ニ) 競争上不利とする點

内地に木材の生産少なきこと、科學的研究の未だ幼稚なること。

(ホ) 競争上有利とする點

工賃の安價なること。

五、アスベスト製品

一、概 説

近時アスベストの需要益々増大せられ、之を絲とし板と爲し、或は布又はロープと爲して電氣、保温等の材料、建築材料、機械用パッキング、自動車及ブレーキライニング、クラッチフェイシング等の材料に共せられ、其の用途頗る多きに上れり。

本邦に於けるアスベスト製品の製造は文献によれば寶曆年中既に平賀源内に依りて研究せられたる事實あるも、實際之が製造は明治二十四、五年頃より大阪方面に創められたるものなり。當時は唯個人組織にして保温材の研究のみに過ぎざりしが、明治二十九年頃初めて同地に會社組織の製造者を出すと共に、各種類製品の製造研究を開始するに至れり。爾來大阪地方に於ける斯業の勃興著しきものあり、明治の末年頃より大正初期にかけて七工場を數へ、之が製品も絲、布、パッキング類を製出するに至れり。然るに尙ほ當時は一般需要者の認識不足なると製造技術の幼稚なるとに依り、勢ひ粗悪品の製造のみ行はれたり。彼の歐洲戰亂以後眞のアスベストの用途擴大せられ、輸入も急増を告ぐるに至り、應て本邦技術の改善を促して、石綿板の製造開始となり、織布の力織機使用となり、或はシートパッキングの製造開始となる等、其の發達目覺ましきものあり、然かも是等の業者が大阪を初め東京、神奈川等に簇出するに及んで、斯業は全く一大躍進を遂げたり。

原料アスベストは和歌山縣、福島縣等の内地に産出せらるゝと雖も、何れも其の纖維強靱ならず、且つ之が産出量も僅少なるが故に原礦を輸入に仰ぎつゝあるものなるが、紡織、製紙用等優良なる原礦は主として加奈陀、露西亞等より輸入し、其の他の製品原料としては滿洲産、アフリカ産等を使用しつゝあり。

二、輸出入狀況

(イ) 輸入額

アスベスト製品の輸入は歐洲大戰前迄は左程多からざりしが、戦後本邦工業の勃興に伴ひパツキ
ング類の輸入特に甚だしきものあり。且自動車の激増に依るライニングの需要増大したる爲め、
昭和四年には實に百七十餘萬圓に達したり。其の後内地製造技術の進歩並關稅の保護とに依り、
近時著しく減退しつゝあり。最近に於ける主なる輸入先は英、獨、北米等なりとす。

アスベスト製品年別輸入額

年次	數量	價額
昭和五年	一、一六九、八六三疋	二、四四七、二四三圓
昭和六年	七七三、七二九	八〇八、〇八一
昭和七年	二九一、九五一	五二八、三二六

アスベスト絲國別輸入額 (昭和七年)

國名	數量	價額
英吉利	三一、九二〇疋	四〇、二五七圓
獨逸	二、五八〇	五、四九九
伊太利	一一〇	二九二
瑞西	—	二〇

北米合衆國

計

六〇〇
三五、二二〇
三、二三八
四九、三〇六

アスベスト板國別輸入額 (昭和七年)

國名	數量	價額
關東州	二四〇疋	三一四圓
英吉利	一三五、八四〇	八六、一一二
佛蘭西	一一〇	一〇七
獨逸	一七、一六〇	一六、〇九二
白耳義	〇	一六四
北米合衆國	六五、二二〇	九二、六〇一
計	二一八、五八〇	一九五、三九〇

アスベストプレキライニング國別輸入額 (昭和七年)

國名	數量	價額
英吉利	一七八疋	六五九圓
北米合衆國	五、六一二	二六、二三四
計	五、七九〇	二六、八九三

其他のアスベスト製品國別輸入額

五九一

國名	數量	價額
關東州	三二六庇	三一三圓
英吉利	一六、三九九	八四、〇〇五
獨逸	六二	二、八二六
伊太利	五、八四二	一三、二一四
北米合衆國	九、七三二	一五六、三七九
計	三二、三六一	二五六、七三七

アスベスト製品年別輸出額

年次	價額	年次	價額
昭和五年	一八五、六七四圓	昭和七年	二五〇、〇二八圓
昭和六年	一四八、五五九		

アスベスト製品國別輸出額 (昭和六年)

國名	價額	國名	價額
中華民國	二三千圓	比律賓諸島	一千圓
關東州	八七	暹羅	一一
香港	四	北米合衆國	一一
英領印度	八	計	一四八
露領亞細亞	一一		

(ロ) 輸出額

本品は支那、滿洲及南洋方面に絲、組紐等の粗悪品の輸出が二、三年以前より増加しつつあるも、未だ特記する迄に至らず。

三、生産状況

アスベスト製品は近時大阪及東京を主産地とし、兵庫、神奈川等にも生産せらるゝに至りたるが、大正初年頃は未だ其の技術幼稚にして綿絲、硫酸バリウム等を原料としたる模造品の市場に現はれたる事實ありたり。其の後技術の進歩發達により斯業の基礎確立し、現時に於ては各地業者共何れも工場組織に依り、優良品を製出しつゝあり。昭和六年末に於ける全國工場數は三十九、其の従業員は約一千百九十四人と算せらるゝが、其の内大規模製造者にありては原鑛を輸入し、粉碎機、紡織機、或は紐編機其他種々の設備を爲して、原料の粉碎より各種製品の製造を行ふもの多く、小規模業者にありては、之等大工場に於て生産せらるゝ絲其他の供給を受け、布、パッキング其他種々の製品の內數種若くは一種を製造しつゝあり。

尙ほ前記工場數の中にはアスベスト及セメントを主要材料とする所謂廣義の製品を製造しつゝある

ものをも含めり。

五九四

(イ) 生産額

アスベスト製品年別生産額

年次	數量	價額
昭和四年	一、四七六、八四二疋	五、五八二、六五七圓
昭和五年	一、六八六、六〇七	四、二三九、八二八
昭和六年	三、一八四、九六六	三、九一一、七五一

アスベスト製品府縣別生産額 (昭和六年)

府縣名	數量	價額
群馬	一、二四三、五八四	一、四七六、四六〇
東京	七六、三四七	五二二、六〇二
神奈川	一	八二、四九六
愛知	一、六六五、七七〇	一、六七六、〇五四
大阪	一九九、二六五	一一〇、一二三
兵庫	三、一八四、九六六	三、九一一、七五一
計		

(ロ) 主要生産者名及所在地名

日本アスベスト株式会社	東京市品川区北品川宿小關五三〇
宮寺商會石綿工場	東京市品川区南品川
和泉アスベスト株式会社	大阪府泉南郡佐野町
日本ライニング製作所	大阪府中河内郡龍華町安中
東洋石綿株式会社	大阪府南河内郡長野町
松山石綿紡織所	大阪府泉南郡信達村
巴バツキング製造所	大阪市浪速區惠美須町
大阪石綿工業會社	大阪市東淀川區中津濱
石綿紡織株式會社	横濱市鶴見區鶴見町
曙石綿工業所	東京市豊島區高田南町三丁目七八四
ダイヤモンド、ライニング營業所	東京市麴町區平河町六丁目四

四、内外品競争状況

(イ) 競争外國品の製造者名又は取扱者名

國名	製造者名又は取扱者名	主なる製品名
北米合衆國	Staybestos Brake Lining Co.	ブレーキライニング

五九五

同	Multibestos Co.	同上
同	Johns-Manville International Corp.	各種製品
同	United State Rubber export Co. Ltd.	パッキング類
同	American Asbestos Co.	ブレーキライニング
同	Garlock Packing Co.	パッキング類
英	Ferodo Limited	ガasketその他
同	ターナーブラザーズ會社	絲及板類
獨	逸 アスベスト會社	パッキング類

(ロ) 品質の比較

板ライニング及パッキング類の技術は近時頗る改良せられ、外國品に比し殆んど同等品質のものを製出するに至り、厚物の如きは寧ろ外國品に優るの觀あり。又絲、織布にありても細物、薄物の類は未だ研究の域を脱せざるも、太物、厚物にありては抗張力其他種々の點に於て外國品に匹敵するに至れり。

(ハ) 價格の比較

昭和七年末に於ける價格は左の如し。

種類別	數量	内地製品	外國製品
絲 (1/16"乃至1/4")	一疋	一・三二	二・二二
同 (1/32")	同	三・七二	六・八二
織 布	同	二・八〇	三・九一
板	同	〇・三七	〇・四八
ジョイントシート	同	二・〇〇	七・〇〇
パッキング	同	一・八〇	七・〇〇
ブレーキライニング	一呎	一・〇〇	四・〇〇
(二吋×十六分の三吋)			

(ニ) 競争上不利とする點

優良原料の内地に産出せざること。需要者が未だ舶來品を崇拜すること。

(ホ) 競争上有利とする點

工賃安價なる爲め、製造費比較的低廉なること。

六、コルク製品

一、概 説

本邦コルク製品工業は明治四、五年頃より勃興したりしが、當時は輸入ビール葡萄酒等の栓の拔殻を集めて手工業に依り投薬瓶栓類を製造するに過ぎざりき。然るに明治の中葉に至り内地に於ける葡萄酒ビール等の製造の發達に伴ひ、瓶栓の需要増加するに至りたるを以て、之等瓶栓の半製品を輸入して加工仕上をなすもの簇出し、更に削機械の案出等により間もなく優良なる完製品を出したり。明治の末年頃よりは壓搾コルク板の輸入益々増加するに鑑み、直ちに之が製造は研究せられ、最近に於ては炭化コルク板の技術迄完成するに及んで、絶縁又は保温材料として従來相當輸入せられたりし板類を追年驅逐しつつあり。又王冠コルク用ディスクの輸入は製品中最も多きものなるが、本品に對しても數年以前より本邦に於ける製造技術の發達顯著なるものあり、全く輸入品に遜色なきものを製造するに至り、その他リングは勿論機械用パッキング材料等の精巧品に至る迄、何等海外品を要せざる域に達せり。

原料コルク樹皮は、廣島又は朝鮮に産出せらるゝアベ楨の皮は薄くして且少量なるを以て、あらゆる用途に適せざる爲め一部に使用せらるゝのみにて、他は全部ポルトガル、スペイン、アルゼリヤ等より輸入せられつゝあり。

二、輸出入狀況

(イ) 輸入額

コルク製品の輸入は従來栓輪の種類最も多く、大正八、九年の交には百萬圓に垂なんとしたる事ありしが、斯業の發達に伴ひ現時に於ては十數萬圓を數ふるに過ぎず、而も此の大部分は王冠用ディスクなりとす。板類の如きも大正年代にありては相當の輸入ありしも、現時にありては主に高級品のみに至り、其の他は化粧品瓶栓等にして何れも其の額大ならず。以上の製品は英吉利、北米合衆國、獨逸、スペイン、葡萄牙、和蘭等より輸入せられつゝあり。

コルク製品年別輸入額

年次	數量	價額
昭和五年	—	二八七、六八八圓
昭和六年	—	一〇一、五〇七
昭和七年	—	九〇、九五六

コルク板國別輸入額 (昭和七年)

國名	數量	價額
英吉利	九〇〇疋	二、九一二圓
獨逸	三、九六〇	四、九八五
白耳義	四二〇	五七五
		五九九

和 蘭	二四〇	一五〇	六〇〇
西 牙	〇	三〇八	
葡 牙	一二〇	一二三	
北米合衆國	四八、六六〇	一一、九四八	
計	五四、三〇〇	二一、〇〇一	

コルク栓及輪國別輸入額 (昭和七年)

國 名	數 量	價 額
中 華 民 國	五二冠	一一一圓
英 吉 利	一二二	八一八
佛 蘭 西	三七九	二、九三六
獨 逸	一	一一
伊 太 利	二七	八五
瑞 西	一三	四〇
埃 太 利	九	二八
和 蘭	一一、一七三	四四、六八七
西 牙	一、九〇七	八、一八二
葡 牙	三、二六九	一一、〇三二
北米合衆國		

其他の阿弗利加諸國

計	一〇	二九
	一七、九六二	六七、九六一

其他のコルク及コルク製品國別輸入額 (昭和七年)

國 名	價 額	國 名	價 額
英 吉 利	二八圓	北米合衆國	一、九五五圓
獨 逸	三	西 牙	一
和 蘭	三	計	一、九九四
瑞 典	五		

(口) 輸 出 額

支那滿洲方面に栓類、板類等の輸出幾分行はるゝも、特記する迄に至らず。

三、生産状況

コルク製品は東京、大阪、廣島を主産地とし、其他新潟、兵庫、岡山等に生産せらるゝものにして、商工省工場統計に依る昭和五年末全國に於ける製造工場數は六十二、之が従業員は一千七百三十五人と稱せらるゝが、此の内には幾分のクラウンコルク製造者を含めり。

ディスク以外の瓶栓類のみを製造しつゝある業者は比較的小規模經營のものにして、家内工業の域

を脱せざるもの多く、手働き削機を使用せるもの少からず。大規模の工場組織に依るものは各種製品の製造をなすも、王冠用ディスクの如きもの、製造は切斷設備並技術或は原料の精撰等相當困難なるが故に、特に優良なる工場に於て生産せらる。壓搾板類の製造はコルク屑又は不良コルク樹皮等を細粒と爲し、粘着劑を用ひて壓搾し、之を或は炭化せしむる等一般コルク製品と設備其の他に於て趣を異にするが故に、本品の製造者は概して之に關聯せる製品の製造をも營む者多し。

(イ) 生産額

コルク製品年別生産額

年次	價額	年次	價額
昭和四年	四、八一二、七六八圓	昭和六年	三、〇一〇、六六九圓
昭和五年	四、五七五、七五三		

コルク製品府縣別生産額 (昭和六年)

府縣名	價額	府縣名	價額
東京	六五四、八七六圓	兵庫	八〇、八六四圓
神奈川	三七二、八七一	奈良	七三、〇〇〇
新潟	一六、〇〇〇	岡山	二七、三〇七
静岡	九二、七五六	廣島	六一八、〇五六

滋賀	一五、三三四
大阪	九九四、九九五

福岡	六四、六一〇
計	三、〇一〇、六六九

(ロ) 主要生産者名及所在地名

- | | |
|-------------|----------------|
| 東京コルク合名會社 | 東京市城東區龜戸町四ノ二六〇 |
| 東京コルク工業株式會社 | 東京市淀橋區下落合二ノ八九七 |
| 永柳商店東京コルク工場 | 東京市向島區寺島町 |
| 日本コルク株式會社 | 東京市本所區江東橋一 |
| 大阪コルク工業合資會社 | 大阪市東成區中濱町 |
| 土橋コルク工場 | 大阪市西成區粉本町三 |
| 芦田義三郎 | 大阪市東成區新喜多町 |
| 喜多コルク製作所 | 大阪市東淀川區南濱町一 |
| 龜田捨三工場 | 大阪市東淀川區南濱町一丁目四 |
| 多可木栓コルク工場 | 兵庫縣多可郡中町 |
| 内山新太郎 | 岡山市門田 |

東洋工業株式會社
太陽コルク工業所

廣島市吉島町
廣島縣佐伯郡平良村

四、内外品競争狀況

(イ) 競争外國品の製造者名又は取扱者名

國名	製造者名又は取扱者名	品名の主なるもの
西班牙	Estva & Messer S. A.	ディスク
獨逸	Simon Eers & Co.	板
北米合衆國	Armstrong Cork Co.	板
同	ノーボイド會社	板
同	ロビンソン會社	
同	New England Fiber Blanket Co.	ブランケット及板
同	Dewey & Almy Chemical Co.	ストツパー
英國	National Cork Industrial Ltd.	板

(ロ) 品質の比較

コルク製品は製造技術比較的簡單なるが故に、輸入原料使用のものは品質に於ては海外品に何等遜色なく、壓搾板の如きはコルク粒の細かく而かも均齋なる點に於て、輸入品に匹敵するものと認めらる。

(ハ) 價格の比較

各品目或は名柄別に具體的に説明し難きも、爲替平價當時に於ける外國品の價格の割合大略左の如し。

獨逸品 約一五%高 米國品 約三五%高 英國品 稍同價

(ニ) 競争上不利とする點

内地に優良原料の生産なきこと。

(ホ) 競争上有利とする點

加工費の比較的安價なること。

七、クラウンコルク

一、概 説

クラウンコルクは壇栓用として最近發達せるものなるが、本邦に製造工業の現はれたるは明治三十

五年にして、英國クラウンコルク會社が横濱に工場を設立したるに初まれり。爾來本品の生産増加すると共に輸入も漸増したりしが、明治の末年頃より東京地方に企業者を出すに至り、更に歐洲戦亂により海外品の輸入杜絶したる結果、東京、大阪、奈良等に製造者簇出し、大正六、七年には既に十六工場を數へ、支那方面に迄販路を擴張するに至りたり。

然るに大正十二年關東大震災に依り東京横濱地方の工場が喪失したる爲め、輸入額の急増を見たり。其の後英國クラウンコルク會社横濱工場の震災に依り閉鎖されたる外、内地製造業の復活目覺しきものあり、且つ之が技術も益々改良せられ、優良品を出すに至りたるを以て、日ならずして輸入品を減退せしめ、今日に至れり。

クラウンコルクの原料は葉鐵即ち錫鍍鐵板、及コルク等なるがコルクはポルトガル、スペイン、アルゼリヤ等より樹皮の儘或はディスクとして輸入せられ、錫鍍鐵板は英、米諸國よりの輸入品を使用しつゝある向あるも、近時内地製品の向上に伴ひ之を使用するもの漸次多きを加へつゝあり。

二、輸出入狀況

(イ) 輸入額

クラウンコルクは明治三十五、六年頃より輸入漸く増大したるも、其の後内地製造者の勃興及歐

洲戦亂等により輸入殆んど杜絶したり。然るに關東大震災により同地方の大工場壊滅したる爲め、大正十三年には其の輸入額六十餘萬圓に達したり。最近内地製造者の復活と技術の改善とにより大いに海外品を驅逐しつゝあり。

年次	數量	價額
昭和五年	四五、六八九哥	四七、六七〇圓
昭和六年	二八、九四三	二三、〇五六
昭和七年	一〇、六五二	五、八四四

國別輸入額 (昭和七年)

國名	數量	價額
英吉和	五、六三一哥	四、六一九圓
獨逸	三七	一一
北米合衆國	九八四	一、二一四
計	一〇、六五二	五、八四四

(ロ) 輸出額

本品は大正六、七年頃に於て支那方面に年額約五千函内外の輸出を見たりしが、同地方に於ける製造旺盛となりたる爲め本邦品の需要減退し、現在に於ては年額五百函内外に過ぎず。然れども

印度南洋諸地方に於ける瓶の改良せらるゝに及んでは、將來相當の輸出あるべき見込にあり。

三、生産狀況

クラウンコルクの製造は東京、大阪を中心とし、奈良、静岡等に行はるゝものなるが、斯業はコルクディスクの製造より仕上に至る全工程を自家工場に於て営むものと、他よりコルクディスクの供給を受けて製造を営むものとの二種に大別せらるゝも、別に王冠用葉鐵の印刷をのみ営む工業もあり。之等の業者は概して工場組織によると雖も何れも其の規模大ならず、又別にコルク製品販賣業者の下請として、家内工業的に葉鐵板の拔絞りとコルクディスクの着合等の操作を行ふ業者亦少なからず。尙本品は其の用途が瓶栓なるが故に大日本麥酒、日本麥酒鑛泉等の酒類、清涼飲料水の製造會社は自家に於て之が製造を爲し、其の餘力を以て幾分他の需要者に供給しつゝあり。

現時本邦に於ける工場數は凡そ十餘を算す。

(イ) 生産額

年次	價額	年次	價額
昭和四年 (推定)	二、〇〇〇、〇〇〇圓	昭和六年 (推定)	一、七〇〇、〇〇〇圓
昭和五年 (同)	一、八〇〇、〇〇〇		

府縣別生産額 (昭和六年)

府縣名	價額	府縣名	價額
埼玉 (推定)	七五〇、〇〇〇圓	大阪 (推定)	一五〇、〇〇〇圓
東京 (同)	二五〇、〇〇〇	奈良 (同)	七〇、〇〇〇
神奈川 (同)	三八〇、〇〇〇	計	一、七〇〇、〇〇〇
静岡 (同)	一〇〇、〇〇〇		

(ロ) 主要生産者名及所在地名

寶冠コルク商會	東京市中野區野方町
倉持王冠コルク製作所	東京市本所區松井町一ノ九
日本麥酒鑛泉株式會社東京工場	埼玉縣川口町
大日本麥酒株式會社保土ヶ谷工場	横濱市保土ヶ谷區神戸下町
日東王冠株式會社	静岡市三番町
龜田商店	大阪市東淀川區南濱町一
喜田コルク第三工場	大阪市西淀川區大仁本町一
王冠製造商事株式會社	奈良市肘塚町

四、内外品競争狀況

(イ) 競争外國品の製造者名又は取扱者名

國名	製造者名又は取扱者名	名柄
北米合衆國	Kork-N-Seal Co.	Gold Isoquered
同	Getz Bros & Co.	Diamond "G"

(ロ) 品質の比較

本邦に於ける斯業は數年來長足の進歩を爲し、コルクディスクの精撰、漂白等に特に留意し、彈性ある優良葉鐵の使用により耐久力著しく増加し、有らゆる點に於て外國品に比し全く遜色を認めざる現狀にあり。

(ハ) 價格の比較

百哥當り内外品の價格左の如し。

年次	品種	價格	品種	價格
昭和六年末	内地品	五五・〇〇 ^円	外國品	六八・〇〇 ^円
昭和七年末	同	六〇・〇〇	同	一〇〇・〇〇

(ニ) 競争上不利とする點

コルク樹皮の内地に生産せられざること。

内地産業鐵に優良なるものを得るの困難なること。

(ホ) 競争上有利とする點

工賃の安價なること。

製造技術が比較的簡單にして我が國民性に適せること。

八、遊 戲 具

一、概 説

近時スポーツの發達著しく、其の種類も極めて多種に涉り、之が用具も多くは輸入品を使用したりしが、内地に於ける製造技術も亦亦長足の進歩をなしたる爲め、逐年海外品を驅逐しつつあり。即ち其の主なるものに付き本邦斯業を見るに、野球用具にありては明治三十九年頃より製造者を出し、現時に於てはグローブ、ミット類、バット等あらゆるもの、優良品を出すに至れり。

庭球用具も明治三十五、六年頃には相當の生産を見たるも、當時は殆んど軟球用のものなりき、然るに硬球テニスの普及に伴ひ之が製造者簇出し、ラケットの如きは既に大正末年頃に於て完成し、最も至難とせられたる硬球に付ても、東京に三田土ゴム製造株式會社の研究成り、數年前遂に日本庭球

協會の公認を得るに至れり。

スキーは明治四十三年頃より傳來せるスポーツなるも、大正五年以來新潟を初め北海道、大阪等各地に頗る發達し、普通品に就ては檜、タモ等の内地材を使用し、高級品にはヒツコリーの如き外材を使用して、輸入品に何等遜色なきものを製出するに至れり。

スケートも最近に於けるスポーツにして、大正八、九年頃に製造者を出したるも完成に至らず、大正十二年頃北海道地方に初めて之が完成を見たり。本品にはローラスケートとアイススケートの二種あるも、數年來アイススケートの發達著しく、従つて北海道、東京、大阪地方に之が生産は盛なり。

其の他の屋外遊戯具の内蹴球ボール、ホッケーステイック、圓盤、投槍等は殆ど内地品にて充分なるべく、近來流行最も甚だしきゴルフ用具に就ても、之が製造研究に着手せるものを出すに至れり。

家内遊戯中には撞球、麻雀、ドミノ等あるも、輸入の比較的多額なるは麻雀なり。本品は二、三年前より東京に於て支那工人を聘して之が製造を開始せるが、横濱に於ては自家の發案になる材料を以て製造を營むものあり。

二、輸出入狀況

(イ) 輸入額

現在輸入の多きは屋外遊戯具にして、此の内最も著しきはゴルフ具、スケート、スキー等にして、野球具、蹴球具及硬球以外の庭球用具等は年々輸入額減退の傾向あり。硬球ボールにありては最近之が需要急増せるにらず、拘未だ内地品の普及全からざる爲め、昭和七年に於て特に増加を示せり。麻雀は支那より數年以來盛んに輸入せられたりしが、最近に至り著しく減少し、其の他の室内遊戯具にありても、主に英米より輸入せらるゝも其の額大ならず。

遊戯具年別輸入額

年次	價額	年次	價額
昭和五年	四三五、三〇六圓	昭和七年	五六八、五二〇圓
昭和六年	四九二、三四五		

テニス用硬球國別輸入額 (昭和七年)

國名	數量	價額
英吉利	六、六七五打	三九、八七五圓
計	六、六七五	三九、八七五

テニス具野球具フットボール具及同附屬品國別輸入額 (テニス硬球を除く)(昭和七年)

國名	價額	國名	價額
中華民國	一圓	北美合衆國	一一、七〇二圓
			六一三

英吉利 一〇、九四三
佛蘭西 五

計

六一四

二二、六五〇

其の他の戶外運動具及同附屬品國別輸入額 (昭和六年)

國名	價額	國名	價額
中華民國	二四圓	瑞典	五圓
海峽殖民地	四〇	諾威	三、五九〇
英吉利	二五九、〇四三	其他の歐羅巴諸國	五〇二
佛蘭西	一五	北米合衆國	一九八、七一九
獨逸	九、四八〇	加奈陀	一、九四一
瑞西	一、四三五	計	四七五、二二六
奧地利	四三二		

戶外運動具以外の運動具及同附屬品國別輸入額 (昭和七年)

國名	價額	國名	價額
中華民國	六、三二四圓	和蘭	一、一五九圓
關東州	一二六	北米合衆國	一一、〇六一
英吉利	二三八	加奈陀	二〇
佛蘭西	一一、五五二	計	三〇、七六九
獨逸	二八九		

(口) 輸出額

本品の輸出は近時支那滿洲方面に開拓せられつゝあるも、未だ特記する迄に至らず。

三、生産狀況

遊戯具の製造は東京、大阪を中心とし、其他北海道、東北地方、新潟、長野、富山等の中部地方に生産せらるゝものにして、之が全國工場數は約五十に及べり。東京、大阪に於ては各種遊戯具の生産行はるゝも、其他の地方に於ては一部種類の製造に過ぎず、即ち北海道に於ては冬期に行はるゝスケート及スキーのみにして、東北方面は殆んどスキーに限られ、中部地方に於てもスキー、野球用バット其他木材を材料とする一部分の製造に過ぎず。

東京、大阪に於ける製造者の多くは、工場組織に依り比較的大規模に生産を爲しつゝあるが、其以外の各地に於けるスキー、スケートの製造者は、一部の工場組織に依るものを除きては概して家内工業にして、之等の業者は常に鐵製品或は木製品等の製造を營み、遊戯具に就ては期節的に就業するもの尠からず。

近時各種製品に對する製造技術著しく發達せるが、需要増大に伴ひ逐年生産増加しつゝあり。

(イ) 生産額

昭和七年に於ける推定額左の如し。

品名	金額
野球用具	二、八〇〇、〇〇〇圓
庭球用具	二、〇〇〇、〇〇〇
スキー	五〇〇、〇〇〇
スケート	一〇〇、〇〇〇
其他の屋外遊戯具	一、〇〇〇、〇〇〇
屋外遊戯具	一、五〇〇、〇〇〇

尙府縣別生産高は詳にすること困難なり。

(ロ) 主要生産者名及所在地名

各種遊戯具	美津濃運動用品株式会社	大阪市北區浦江本通二
同	美滿津商店龜戶工場	東京市城東區龜戶町三
同	玉澤運動具工場	東京市牛込區山吹町
同	久保彌三郎	大阪市港區高尾町一丁目二五
庭球用硬球	三田十ゴム製造株式会社	東京市本所區中ノ郷業平

ラケット、ピン ボン用具	中村 繼次郎	東京市小石川區大塚坂下町一五
野球用バット	大平木工株式会社	富山縣西礪郡福光町
ラケット	伊藤 藤長吉	大阪市東成區鶴橋北野町二
同	小島ラケット製作所	名古屋市中區前並町
ラケット用ガット	田中 又治郎	大阪市東成區中道町
ラケット	森下ラケット製造所	東京市荒川區尾久町二丁目
スキー	山田 善四郎	新潟高田市茶町
同	古川 甚三郎	新潟高田市本町六丁目
同	伊村スキー製作所	長野縣飯山町
同	中野四郎工場	札幌市南一條西二ノ九
同	原田 健藏	青森縣弘前市土手町
同	青森スキー製作所	青森市浦町
同	秋田木工株式会社	秋田縣雄勝郡湯澤町
同	月岡 源吾	高田市大手町

瑞	西	エッチ、スタウプ會社	スキー用具
諾	威	ノールウエーシー會社	同
オーストリー		ビクターゾーム會社	同

(ロ) 品質の比較

庭球用硬球は現在スラセンチャイボールが最も優良品として使用せられつゝあるが、本邦品にあ依ては最近其の製球技術の發達とにりり、ライト級ボールに比し何等遜色なきに至れり。
ラケットは塗裝及膠着等に多少遺憾の點あるも、耐久力に於ては殆ど遜色なし。
野球用具に於ても何等輸入品に遜色なく、スキーも優良品に於ては輸入材を使用するが故に、外國品に劣ることなく、スケートの如きは焼入れ其の他本邦古來の技術の應用に依り輸入品に匹敵するもの多く、其の他屋内外各種遊戲具に付品質に於ては輸入品に匹敵するに至れり。唯ゴルフ用具は未だ製造技術も幼稚にして、外國品に對抗するの困難なる事情にあり。

(ハ) 價格の比較

主なる品種に付内國品を輸入品に比較すれば大略次の如し。

品名	價額
庭球用硬球	四割乃至六割方安價なり

ラケット	約半價なり
スケート	平均三割乃至五割安價なり
スキー	本邦品五圓乃至十圓なるに輸入品は八圓乃至二十五圓なり
野球用バット	本邦品三圓八十錢乃至五圓なるに輸入品は五圓乃至六圓五十錢なり

(ニ) 競争上不利とする點

高級品材料の内地に産出せざること。海外製造者に比し規模少にして、設備完備せざること。遊戯具の使用者には特に舶來品崇拜者多きこと。

(ホ) 競争上有利とする點

工賃の安價なること。本品の製造には比較的手工技術を必要とするものなるが、我が國は此の點に於て最も長せること。

國產要覽終

工賃の支拂はるゝこと、本誌の掲載は其の範圍を工賃の支拂はるゝものとし、其の外のものは掲載しないこと、

(本) 産物と原料とを区別する

産物の原料は其の原料の産地を記載すること、

産物の産地は其の産地を記載すること、

(二) 産物と原料とを区別する

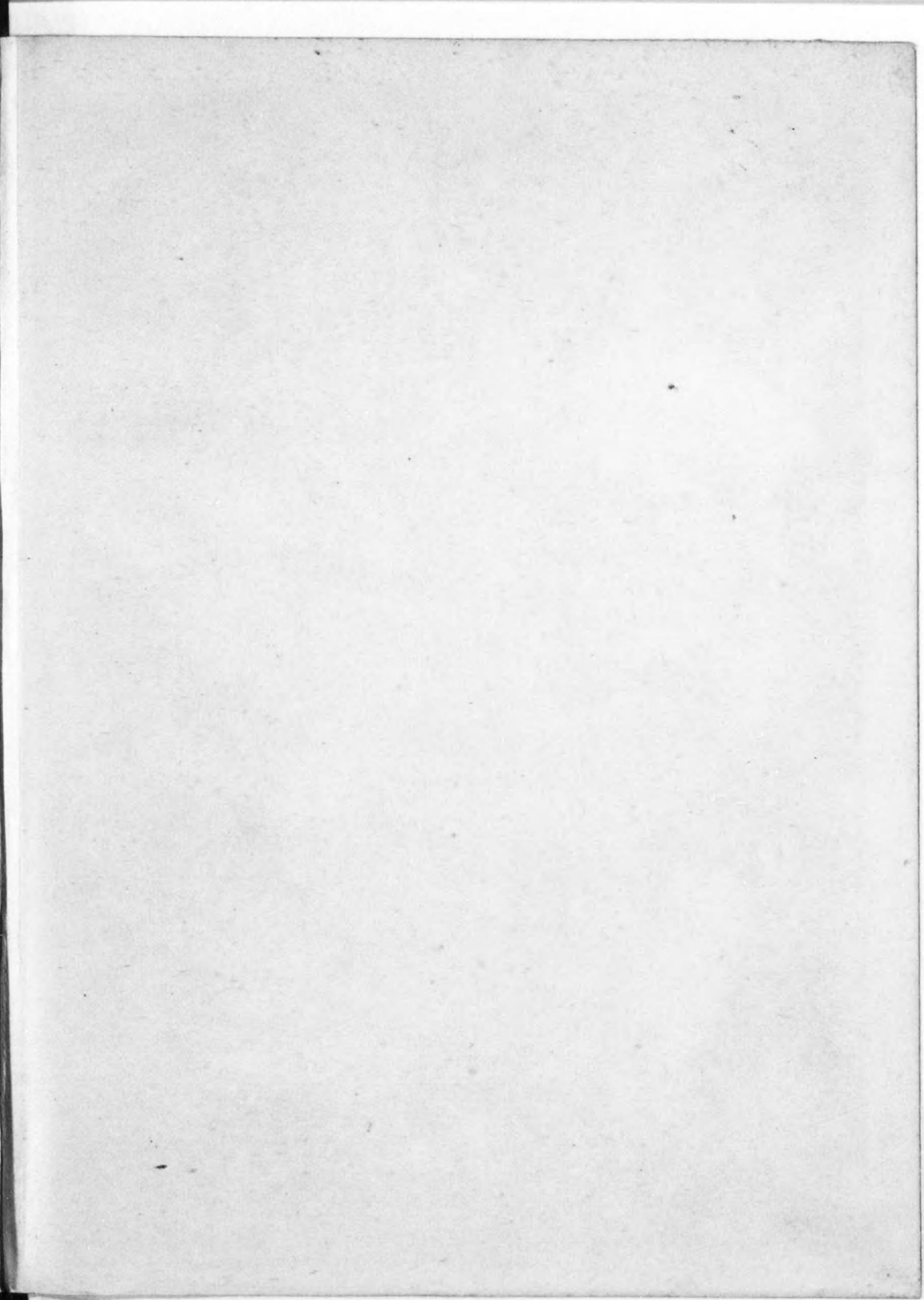
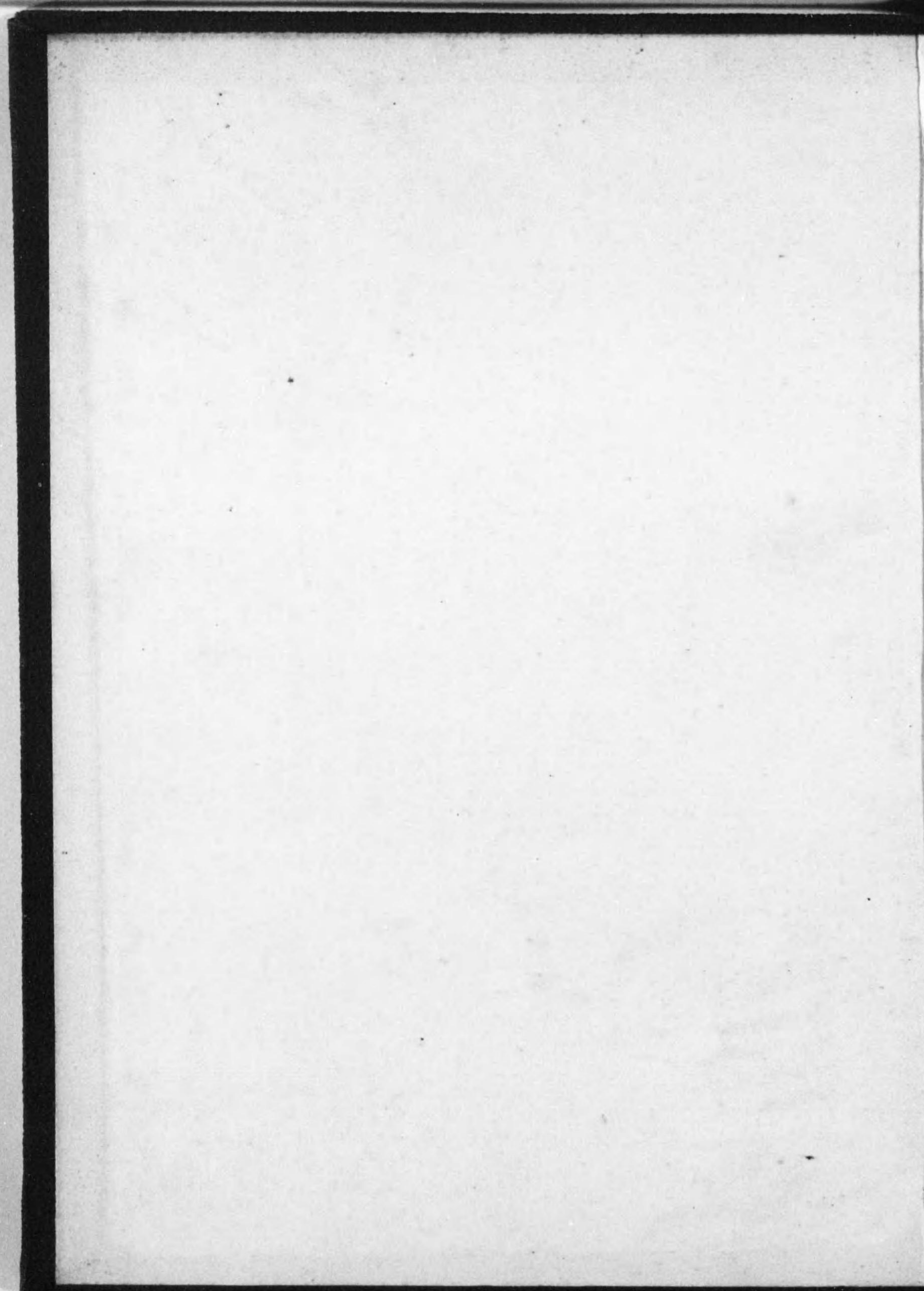
昭和九年二月十五日印刷
 昭和九年二月二十日發行

實費壹圓五拾錢(要送料)

日本商工會議所

東京市麹町區丸ノ内三ノ一四
 電話 丸ノ内(23) 三五・三六番
 振替口座東京七三七七〇番

本書の寸法は日本標準規格A5(148
 × 210mm)に準據したるものなり。



終